

診療所看護師育成プログラム
哲西町診療所・庄原赤十字病院
～へき地看護・地域看護を担う看護師の育成～

2020 年 10 月

診療所看護師育成プログラム作成への思い

「哲西町診療所で新卒で働かせていただけますか?！」

数年前看護学生からのこの申し出に戸惑ったことがあります。この学生は、他県から二日間の研修で哲西にきて、さらに実習をしたいと自ら志願し夏休みをけずって再度一週間やってきた学生さんでした。元々彼女は地域医療に興味があり、将来はへき地医療・へき地看護に携わりたいと話していました。当診療所で実習をした看護学生の多くは、「病院で何年か働いてから診療所で働いてみたいです」と感想を話してくれますが、新卒で働きたいと言われたのはその時が初めてでした。そしてさらに彼女は、「家族は大学卒業後、地元で働いてくれるのを楽しみにしています。でも私は哲西で働きたいんです!!」と続けました。

哲西町診療所は、これまで「地域医療に興味をもってもらい、将来地域医療を担ってほしい」という願いを込めて、地域医療マインドを伝えることに力を入れてきています。

診療所看護師は、多岐にわたる業務を行いながら、住み慣れた哲西町で暮らしていきたいと願う住民のために、医療的側面は元より、生活的側面のニーズ・問題点をも拾い上げ、その実現に向けて、多職種の方々に繋ぐ役割を果たしています。全国的に診療所看護師の数は、看護職全体の約 20%しか存在しません。でも反対に 20%もいるのに、社会的な認識が低く学生の在宅看護の教科書には診療所看護師の存在の記載すらありません。だからこそ現場で働く私たちが声を上げなくてはいけないと思いました。私個人的には、これからも看護師として生きていくなら診療所看護師しかないと考えています。なぜなら、患者さんの生涯に寄り添っていくことで、患者さん、家族、住民の皆様の感謝や温かさにふれ、看護師としてのやり甲斐を感じるようになり、同時にこの仕事に誇りを持てるようになったからです。

彼女に「哲西で働きたい」と言わせたのは、そんな思いが伝わったからでしょう。ですが、嬉しい気持ちと同時に、不安の方が大きくなりました。地元を離れ、人生かけてやってこようとしている何にも染まっていない新卒の看護師を、ここで育てられるのか。ただ共に働くだけでは、彼女の期待には応えられない、きっと彼女のキャリアを潰してしまう気がする、そう思いました。私が新卒で勤めていた病院は卒後の教育として、経験年数ごとにしっかりとしたカリキュラムがありました。そのため新卒看護師の教育が診療所だけでは補えないと考え、病院や他施設の力もお借りしてできたらと考えました。実際に哲西町診療所では研修医の後期研修プログラムもあったので、多施設で育てるイメージもありました。実際、庄原赤十字病院をはじめ、多施設の皆様の協力をあおぎながら育成することとなりました。

診療所看護師のほとんどは、大病院や一般病院での経験後入職されます。ある報告では診療所勤務の理由として、家庭の都合や子育てなどで夜勤ができないので「日勤だけの仕事で」といった形で、前向きに入り込むのではなく、むしろ後ろ向きに入ってこられる状況が多いとありました。

地域看護、へき地看護の育成プログラムが全国的にもほとんどない状況ですが、国民のニーズに応えるべく、20%存在する診療所看護師が、その重要性や、やりがい、魅力などを伝え地域看護、へき地看護に携わる看護師を育成していきたいと考え、プログラムの作成に至りました。

全国の皆様方、へき地看護の魅力にふれてみませんか。お待ちいたしております。

哲西町診療所 看護師

桑 原 ひ と み

1. はじめに

当プログラムは、在宅支援診療所である哲西町診療所と庄原赤十字病院が連携し、診療所看護師の育成を行うものである。診療所看護師に求められる能力としては、受診者が安心できる態度、的確な看護技術、緊急性の判断力、受診者の生活する地域特性の把握、地域性を踏まえた会話をするなど的高度なコミュニケーション能力が求められる。このような能力を習得しべき地看護・地域看護を担う看護師として、看護・介護・保健・福祉・医療・救急を担い、様々な場面に対応できる看護のジェネラリストであり、地域環境・自然・文化をよく知りそれらが生活にどのような影響を与えているかを熟知し、住民の情報を理解し、それらを実践に応用できる地域のスペシャリストとして活躍できることを期待する。

当プログラムでは、「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）（JNA ラダー）」を導入し独自の「診療所看護師クリニカルラダー」（別冊：診療所看護師クリニカルラダーの手引き）と、厚生労働省の示した新人看護職員研修ガイドラインに準じ、更に診療所看護師に必要な技術内容を加えた診療所看護師看護技術チェックリスト（別冊）を用いる。以下の目的、目標、学習課題を達成するためにラダーとチェックリストを用いて評価し、看護技術の習得確認を行う。

個人の看護実践能力があらゆる施設や場でも通用するものとなるよう担保されている。

2. 目的

新卒者の看護師または既卒者で診療所勤務経験がない看護師が、へき地診療所看護師としてへき地看護・地域看護を行う上で必要な知識・技術・態度・判断力を習得し、へき地看護・地域看護の果たす機能を理解し全人的看護が行える診療所看護師として活動できる。

そして、人間性豊かで、へき地看護・地域看護に誇りを持ち、地域のスペシャリストとして活動できる看護師を育成する。

3. 目標

- 1) 診療所看護師が果たすべき役割の理解と、そのために必要な知識・技術・態度・判断力を習得する。
- 2) 診療所看護師として地域住民の健康と、保健・医療・福祉・介護を必要とする患者とその家族に対し、全人的な看護の提供が行える。
- 3) 地域包括ケアシステムの中で、多職種と連携し問題解決していく能力を習得し、発揮できる。
- 4) 地域における予防医学、保健活動の重要性について認識し実践できる。
- 5) 患者、家族からの言葉や表情、話し方、しぐさ、素振り、態度などからしっかりとニーズを見出し、更にどのような相談にも断ることなく、何でも相談をうけ、可能な限り住み慣れた地域で住民が最期まで住み続けることができる支援ができる。

4. 学習課題

- 1) 診療所看護師の役割について理解し、実践する力をつける

①外来機能

- (ア)診療の補助・サポート，検査や処置の介助・実施
- (イ)トリアージ（緊急性の判断，受診のスケジュールリング）
- (ウ)生活習慣の問題の拾い上げ，健康教室，あらゆる相談に対して断ることなく対応
- (エ)異常の早期発見，健康診査，がん検診，精密検診など
- (オ)臨床検査技師，放射線技師，薬剤師業務の補助
- (カ)受付業務，診療報酬請求業務など事務業務の補助
- (キ)病診連携，診診連携

②在宅支援機能

- (ア)訪問診療の補助・訪問看護（住み慣れた地で最期まで支援）
- (イ)緊急時・夜間・休日の対処法，処置方法の指導
- (ウ)意思決定支援

③地域支援機能

- (ア)地域へ出向いて健康教育・啓蒙活動
- (イ)地域住民と共に地域医療を考える
- (ウ)園医・学校医・産業医の診療の補助
- (エ)地域包括ケアの推進・まちづくりの推進
（保健・医療・福祉・介護に留まらず，行政・NPO・住民組織との協働）

④マネジメント

- (ア)患者・家族のマネジメント
- (イ)組織運営マネジメント
- (ウ)地域組織への関わり

2) 診療所の後方支援病院の機能を理解し，実践する力をつける

①病棟業務

- (ア)基礎的知識を身につけ，基本的な看護手順に従い，指導や助言を得ながら看護を実践する。
- (イ)自分の役割と責任を認識し，自分の能力を超えた看護が求められる場合は自ら支援や指導を得る。
- (ウ)優先順位を決定し，日常業務・生活の中で適用できることをめざす。
- (エ)看護者の倫理綱領を知っており，対象を一個人として尊重する。
- (オ)社会情勢や保健・医療・看護・福祉の動向及び地域の特性と健康問題に関心を持つことができる。

②退院支援

- (ア)対象者を生活者として捉える能力の習得。
- (イ)対象者のセルフケア能力と自己管理能力の維持・促進を支援する能力の習得。
- (ウ)対象者を家族・キーパーソンも含めて支援する能力の習得。
- (エ)対象者の希望を軸として多職種連携を調整する能力の習得。
- (オ)社会資源の必要性のアセスメントと調整能力の習得。

3) へき地看護・地域看護について理解し，実践する力をつける

- ①地域住民の医療・看護に対するニーズを理解する。
- ②地域の抱える問題点を理解する
- ③へき地看護・地域看護に対し行われている対策を理解する。

④へき地看護・地域看護の特徴を理解する。

4) 保健や福祉介護との連携や地域包括ケアの重要性を理解し実践する力をつける

①在宅医療・在宅看護を理解する

②保健福祉介護スタッフとの連携について理解する

③予防医学、保健活動について理解する

④医療・看護と行政との連携について理解する

⑤医療・看護と NPO はじめ様々な住民組織との協働について理解する

⑥地域包括ケアについて理解する

⑦地域包括ケアが教育文化産業などに影響を与えまちづくりの一翼を担っていることを理解する

5. 学習課題を達成するためのプログラム及びスケジュール

1) プログラムについて

- 本プログラムは3年で修了するものとする。(コース A)
- 1年目は病棟の配属となり新人看護師研修を受け、看護を安全に提供するための臨床実践能力を習得しなければならない。
- 既卒者で診療所勤務経験がない場合、新人看護師研修を修了している場合、臨床経験年数が2年以上の場合は、プログラムは2年で修了する。(コース B)
- 各人の経験や技術を踏まえ、目標達成を目指したものとし、プログラム期間は延長も可能である。
- 尚、在宅支援診療所以外に在籍中は、定期的に哲西町診療所（在宅支援診療所）で研修を行う。

2) スケジュール

コース A：新卒者対象3年間モデル

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年 目	庄原赤十字病院											
	病 棟											
2 年 目	庄原赤十字病院						選択研修			選択研修		
	内科外来・救急 人工透析		訪問 看護	地域包括ケア病棟 (退院支援)								
3 年 目	哲西町診療所											
	在宅支援診療所											

1年目 ラダーⅠの習得と認定を目指す

病棟に配属となる。新人看護師研修を受け、看護を安全に提供するための臨床実践能力を習得する。

2年目 ラダーⅡの習得を目指す

4-5月：病院での外来業務を行い、外来看護の重要性を理解する。救急外来での看護師の役割を理解する。
透析看護について理解する。

6月：訪問看護ステーションで訪問看護の概要、在宅看護に必要な能力と技術を習得する。

7-9月：地域包括ケア病棟の役割を理解し、在宅復帰に向けた支援を習得する。

退院支援看護師の役割を理解し、退院支援に関わることができる。

10-3月：選択研修（様々な看護の場を経験することができるよう考慮する）

3年目 ラダーⅡの習得とプログラム修了認定を目指す

へき地在宅支援診療所で地域看護の実践。2年間で習得した知識・技術・態度・判断力を発揮し診療所看護師として活動する。

コースB：既卒者で診療所経験がない看護師，またはラダーⅠ認定の看護師 2年間モデル

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年 目	庄原赤十字病院						選択研修					
	内科 外来 救急	訪問 看護 ST	人工 透析	地域包括ケア病棟 (退院調整看護師)			or 在宅支援診療所（哲西町診療所）					
2 年 目	哲西町診療所											
	在宅支援診療所											

1年目 ラダーⅠの達成されていない分野の習得とラダーⅡの習得を目指す

4-5月：病院での外来業務を行い、外来看護の重要性を理解する。救急外来での看護師の役割を理解する。
透析看護について理解する。

6月：訪問看護ステーションで訪問看護の概要、在宅看護に必要な能力と技術を習得する。

7-9月：地域包括ケア病棟の役割を理解し、在宅復帰に向けた支援を習得する。

退院支援看護師の役割を理解し、退院支援に関わることができる。

10-3月：選択研修または、へき地在宅支援診療所で地域看護の実践。

2年目 ラダーⅡの習得とプログラム修了認定を目指す

へき地在宅支援診療所で地域看護の実践。これまでの経験を発揮し診療所看護師として活動する。

6. プログラム修了認定について

1) 前提条件

新卒者であれば3年のプログラムを終了した者，または終了見込みである者。

既卒者であれば，2年以上のプログラムを終了した者，または終了見込みである者。

2) 修了認定について

キャリアラダーレベルⅡ以上が認定されており，プログラム認定委員会で修了を認定された者とする。

7. プログラム修了認定委員会について

- プログラム修了認定委員会は以下のメンバーで構成する。
 - ・ 哲西町診療所 所長，医師，看護師長
 - ・ 庄原赤十字病院 看護部長
 - その他，必要に応じて委員会が指名する者
- プログラム修了認定を受けるものは以下の書類を認定委員会に提出する。
 - ① プログラム修了認定申請書（様式2）
 - ② ラダー認定書
- 認定者に対して，認定証を授与する。

8. プログラム管理委員会

- プログラム管理委員会を設置し，プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行い，よりよいプログラムを構築して行くこととする。
- プログラム管理委員会は以下のメンバーで構成する。
 - ・ 哲西町診療所 所長，医師，看護師長
 - ・ 庄原赤十字病院 看護部長
 - ・ 庄原赤十字病院 院長
 - ・ 社会福祉法人哲西会理事長
 - ・ 研修者の代表
 - ・ 学識経験者
 - その他必要に応じて委員会が指名する者

問 い 合 わ せ 先

社会医療法人 哲西会 哲西町診療所

〒719-3701 岡山県新見市哲西町矢田 3604 番地

TEL：0867-94-9224 FAX：0867-94-9223

E-mail：clinic@tesseishinryo.com